

## なかさと いせき 中里(2)遺跡

所在地 とわだし おおあざほうりょうあざなかさと  
十和田市大字法量字中里

時代 じょうもんじだい やよいじだい  
縄文時代、弥生時代

出土遺物 じょうもんどき やよいどき せっき  
縄文土器、弥生土器、石器ほか

出土遺構 いしくみろ ちようけつ  
石組炉、貯蔵穴ほか

報告書名 2001年 中里(2)発掘 調査報告書(十和田湖町教育委員会)  
2016年 十和田湖町史 上巻

### 解説

市街地の西10 km、なかさとがわさがん かがんだんきゆうじょう中里川左岸の河岸段丘上ちようしへんさんにあります。町史編纂事業じぎょうにより発掘調査され、縄文時代のそうき ばんき早期～晩期、弥生時代のぜんき こうき前期～後期の遺跡であることがわかりました。

弥生時代の前期と中期の石組炉が発見されており、十和田市では、唯一弥生時代のしゅうらく集落の存在があきらかとなっています。遺物としては、弥生前期～中期の土器が出土したほか、同時代の大型蛤おおがたはまぐりばせき ふう刃石斧、扁平片刃へんぺいかたば石斧、有孔石製品ゆうこうせきせいひん、石鏃せきぞくなどの石器が出土しています。

十和田市の弥生時代を知る上で欠かせない遺跡です。



石組炉



弥生時代の土器・石器

(左より甕形土器、大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧)